



心のきずなを深める月間 6月3日～6月28日(校内)

【テーマ】 みんなでいじめをなくしていこう～思いやりの心をもって～

この期間中、以下の取組を学級や学年に応じて重点的に取り組みます。

1 校長講話 6月3日(月)

- ① いじめはいけないことだとわかっているのに起こってしまうのはなぜ?
- ② いじめの 四層構造
- ③ 気付こう! つなごう!

といった内容をプレゼンを用いて話しました。ちょうど6月3日の朝日新聞に「命の作文 14歳の苦しみ」という見出しで、いじめを苦しめた生徒の作文とご両親の思いが掲載されていたので、一部紹介しました。そして、この期間に

- いじめを起ささないために自分たちができること
- いじめが起きたときに自分たちができること
- いじめられていると感じたときのSOSの出し方

について学んでほしいことを伝えました。



2 きずなアンケートの実施

3 人権学習や道徳の授業の実施

きずなアンケートをふまえ、いじめについて考えたり、悩みや不安を抱いたとき、誰にどのようにSOSをだせばよいか具体的に学んだりする授業を実施する。

4 いじめのサイン発見シート(すぐるで配信)

5 学級通信等で学級の取組の紹介

6 人権標語に取り組み、掲示する

7 「田迎南小いじめ根絶宣言」と「インターネットの南っ子ルール」確認

**情報モラルについてはご家庭でも指導をお願いします。スマホ等をお子さんに持たせたならば、どういった使い方をしているのか、親が必ず確認してください。**

8 生活ノートや日記などから、子供の小さな変化や心の悩みなどに気付く

9 生活夕会で教職員のチェックシートを使い研修する

10 スクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSW)を積極的に活用する

和顔愛語 先意承問 (わげんあいご せんいじょうもん)

日頃、私たちはいろいろな感情や気持ちを伝えながら、人と会話をしています。お世話になったり助けてもらったりしたときは「どうもありがとうございます」。困ったときやお願い事があるときには「すみませんけど・・・」。嬉しい時には「あのねー嬉しいことがあったんだけど聞いてくれる」と。この時、私たちは自分が伝えたいことはほぼ伝わったと感じて会話を続けていると思いますが、自分が意図したことがうまく伝わっているのは6割くらいらしいのです。つまり4割はうまく伝わっていないということになります。

では、このうまく伝わらなかった原因が、言語(言葉の選び方)、聴覚(聞く力)、視覚情報(表情やジェスチャー)の3つがうまく一致していない事にある場合、この3つのうちのどの情報が優先されて、どの情報が相手の印象に影響を与えるかを調べた人がいます。アルバート・メラビアンというアメリカの心理学者です。調査の結果、言語情報が7%、聴覚情報が38%、視覚情報が55%影響を与えるとされています。つまり、人にうまく自分の気持ちを伝えるには、言葉の選び方も大切ですが、表情や身振り手振り、声の高さや抑揚がとても大切だということになります。

「和顔愛語 先意承問」という言葉があります。「おだやかな笑顔と思いやりのある言葉で人に接し、相手の気持ちを先にくみ取って、よく受け入れる」という意味です。相手のことをまず思い、思いやりのある言葉を選んで、笑顔で語りかける。さらには、身振り手振りを交えながら、穏やかな口調で話す。これを心掛けて人と接すれば、今までよりずっと、自分の気持ちを相手に深く理解してもらえるのではないのでしょうか。<浄土真宗本願寺派 蘇峰山 常楽寺>

この住職の話からも改めて強く感じたことは「コロナ禍にマスク着用を強いられたことは、子供同士、子供と大人、大人同士の「コミュニケーション」に大きなマイナスの影響をもたらした」ということです。私たちはコミュニケーションを取るときに言葉だけを伝え合っているわけではありません。声や体の動きも大切ですが、やっぱり表情です。マスクをすると、その表情が半分、隠れてしまうのです。うまく聞き取れなくても口の動きを見て言葉や内容を理解しようとすることがありますよね。子供に接するときには特に大切にしたいところだと思って、毎日を過ごしています。